

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成28年8月12日

【四半期会計期間】 第86期第1四半期(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

【会社名】 株式会社メタルアート

【英訳名】 METALART CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 多田 修

【本店の所在の場所】 滋賀県草津市野路三丁目2番18号

【電話番号】 077(563)2111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 安居 弘

【最寄りの連絡場所】 滋賀県草津市野路三丁目2番18号

【電話番号】 077(563)2111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 安居 弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第85期 第1四半期 連結累計期間	第86期 第1四半期 連結累計期間	第85期
	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	5,756,185	5,967,350	23,469,810
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	42,588	314,840	107,081
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失 ( ) (千円)	39,309	419,494	181,079
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	20,656	337,567	733,087
純資産額 (千円)	11,959,372	10,856,732	11,246,345
総資産額 (千円)	24,566,466	22,826,230	22,360,269
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期(当期)純損失金額 ( ) (円)	2.49	26.62	11.49
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	48.0	47.6	50.3

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれていません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載をしていません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、製造業ではおおよそ横ばいで推移したものの、熊本地震の影響・イギリス国民投票でのEU離脱派勝利を受けた急速な円高進行・ヨーロッパ及び中東諸国のテロ・情勢不安等、先行きの不透明観は依然払拭出来ない状態です。

このような環境のもと自動車部門では、国内では登録車が堅調に推移し前年比105.3%と増加した一方、当社主力である軽自動車の軽自動車税増税による市場縮小からの挽回遅れに加え、一部自動車メーカーによる燃費不正問題にて更に市場が縮小し、前年同期比で86.1%と大幅に減少しました。しかし、海外では当社に与える影響が大きいインドネシア・タイ・マレーシアでの足もと状況では、マレーシアでは15%程度市場が悪化しているものの、インドネシア・タイが好調な状況により平均では2%程度増加にて推移し、更に予定しておりましたインドネシア子会社の新規受注品も順次納入開始され、国内市場での売上高減少をカバーしております。建設機械部門においては、海外資源価格下落による鉱山機械需要の低迷が続き、中国や東南アジア市場は下げ止まりの兆候も一部では見えるものの依然厳しい状況です。また、昨年度に実施致しました海外廉価部品対抗による販売価格値下げも売上高に大きく影響いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は59億6千7百万円（前年同四半期比3.7%増）となりました。部門別では、自動車部品は47億2百万円（前年同四半期比11.1%増）、建設機械部品は9億8千8百万円（前年同四半期比17.7%減）、農業機械部品は1億6千7百万円（前年同四半期比10.3%減）、その他部品は1億8百万円（前年同四半期比19.6%減）となりました。

一方、損益面におきましては、売上の増加、グループを挙げての原価低減により、営業利益は1億2千9百万円（前年同四半期比233.6%増）となり、またインドネシアの通貨が、円・ドルに対して大きく下落したことにより、PT.METALART ASTRA INDONESIA（インドネシア子会社）への当社からの円建貸付金等にかかる為替差損4億6千2百万円の発生が影響し、経常損失は3億1千4百万円（前年同四半期は経常利益4千2百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は4億1千9百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益3千9百万円）となりました。

## (2)財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産は、前連結会計年度末に比べ4億6千5百万円増加し、228億2千6百万円となりました。

資産の部では、流動資産は、現金及び預金が5億1千2百万円増加、たな卸資産が2億6千6百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ8億7千2百万円増加し、122億3千9百万円となり、また固定資産は前連結会計年度末に比べ4億6百万円減少し、105億8千6百万円となりました。

負債の部では、流動負債は、買掛金が3億7千3百万円増加、未払法人税等が9千6百万円増加、賞与引当金が1億5千万円減少、その他に含まれている未払費用が2億5千2百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ8億6千5百万円増加し、110億5千5百万円となり、固定負債は、長期借入金による返済が1千8百万円減少したこと等により前連結会計年度末に比べ9百万円減少し、9億1千4百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失4億1千9百万円の計上による減少、剰余金の配当による7千8百万円の減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ3億8千9百万円減少し、108億5千6百万円となりました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

研究開発費発生額については、現状、費用区分が困難なため、算出していません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,786,910	15,786,910	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は1,000株であります。
計	15,786,910	15,786,910		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年6月30日		15,786,910		2,143,486		1,641,063

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 28,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,725,000	15,725	
単元未満株式	普通株式 33,910		
発行済株式総数	15,786,910		
総株主の議決権		15,725	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれています。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれています。
- 2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式879株が含まれています。
- 3 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしています。

## 【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) (株)メタルアート	草津市野路三丁目2番18号	28,000		28,000	0.18
計		28,000		28,000	0.18

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しています。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により四半期レビューを受けています。

なお、従来、当社が監査証明を受けているPwCあらた監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成28年7月1日をもってPwCあらた有限責任監査法人となりました。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,681,443	2,194,025
受取手形及び売掛金	3,109,481	3,132,607
電子記録債権	2,459,681	2,439,562
製品	239,872	336,298
仕掛品	1,200,883	1,206,475
原材料及び貯蔵品	1,929,505	2,094,220
その他	746,451	836,798
流動資産合計	11,367,319	12,239,990
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,688,551	2,601,482
機械装置及び運搬具（純額）	4,641,224	4,308,623
土地	2,553,234	2,518,190
その他（純額）	694,437	729,515
有形固定資産合計	10,577,448	10,157,811
無形固定資産	44,749	40,921
投資その他の資産		
投資有価証券	125,170	111,589
その他	254,711	285,047
貸倒引当金	9,130	9,130
投資その他の資産合計	370,751	387,506
固定資産合計	10,992,950	10,586,240
資産合計	22,360,269	22,826,230
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,687,326	2,060,517
電子記録債務	3,766,196	3,756,815
短期借入金	3,572,000	3,572,000
未払法人税等	-	96,806
賞与引当金	307,452	157,160
役員賞与引当金	-	900
その他	857,358	1,411,276
流動負債合計	10,190,333	11,055,477
固定負債		
長期借入金	248,000	230,000
退職給付に係る負債	472,439	478,405
役員退職慰労引当金	98,400	86,325
資産除去債務	25,817	25,841
その他	78,932	93,448
固定負債合計	923,590	914,020
負債合計	11,113,924	11,969,498



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,143,486	2,143,486
資本剰余金	1,641,063	1,641,063
利益剰余金	7,530,248	7,058,706
自己株式	8,972	8,972
株主資本合計	11,305,825	10,834,284
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	38,712	29,245
為替換算調整勘定	5,246	84,452
退職給付に係る調整累計額	92,945	91,250
その他の包括利益累計額合計	59,479	22,447
非支配株主持分	-	-
純資産合計	11,246,345	10,856,732
負債純資産合計	22,360,269	22,826,230

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	5,756,185	5,967,350
売上原価	5,338,709	5,427,028
売上総利益	417,476	540,321
販売費及び一般管理費	378,537	410,433
営業利益	38,939	129,888
営業外収益		
受取利息	1,823	808
受取配当金	4,664	1,650
受取ロイヤリティー	2,697	1,747
債務勘定整理益	1,735	4,676
その他	16,359	12,547
営業外収益合計	27,279	21,431
営業外費用		
支払利息	4,012	3,316
為替差損	15,936	462,627
その他	3,682	215
営業外費用合計	23,630	466,159
経常利益又は経常損失( )	42,588	314,840
特別利益		
補助金収入	118,276	-
特別利益合計	118,276	-
特別損失		
固定資産処分損	-	14,111
固定資産圧縮損	81,859	-
特別損失合計	81,859	14,111
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	79,004	328,952
法人税等	119,906	90,542
四半期純損失( )	40,901	419,494
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	80,210	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	39,309	419,494

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純損失( )	40,901	419,494
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	14,986	9,466
為替換算調整勘定	5,416	89,699
退職給付に係る調整額	158	1,695
その他の包括利益合計	20,244	81,927
四半期包括利益	20,656	337,567
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	57,928	337,567
非支配株主に係る四半期包括利益	78,585	-

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日至平成28年6月30日)	
(会計方針の変更)	
<p>「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日。以下「回収可能性適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間から適用し、繰延税金資産の回収可能性に関する会計処理の方法の一部を見直しています。</p> <p>回収可能性適用指針の適用については、回収可能性適用指針第49項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点において回収可能性適用指針第49項(3)からに該当する定めを適用した場合の繰延税金資産及び繰延税金負債の額と、前連結会計年度末の繰延税金資産及び繰延税金負債の額との差額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加算しています。</p> <p>この結果、当第1四半期連結会計期間の期首において、繰延税金資産(投資その他の資産)が26,743千円、利益剰余金が26,743千円増加しています。</p>	

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日至平成28年6月30日)	
1 税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	315,239千円	277,952千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	141,849	9	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	78,790	5	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

当社及び連結子会社は、ともに鍛工品製造販売の単一セグメント(連結子会社は鍛工品の製品及び当社の一部部品加工組立を業としている。)であるため、記載を省略しています。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

当社及び連結子会社は、ともに鍛工品製造販売の単一セグメント(連結子会社は鍛工品の製品及び当社の一部部品加工組立を業としている。)であるため、記載を省略しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額( )	2円49銭	26円62銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	39,309	419,494
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	39,309	419,494
普通株式の期中平均株式数(千株)	15,760	15,758

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月10日

株式会社メタルアート  
取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	加藤 真美
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	田邊 晴康

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社メタルアートの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社メタルアート及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。